

新地町 環境都市 ニュース

平成25年11月

「環境まちづくり町民講座」

はじめよう つながろう

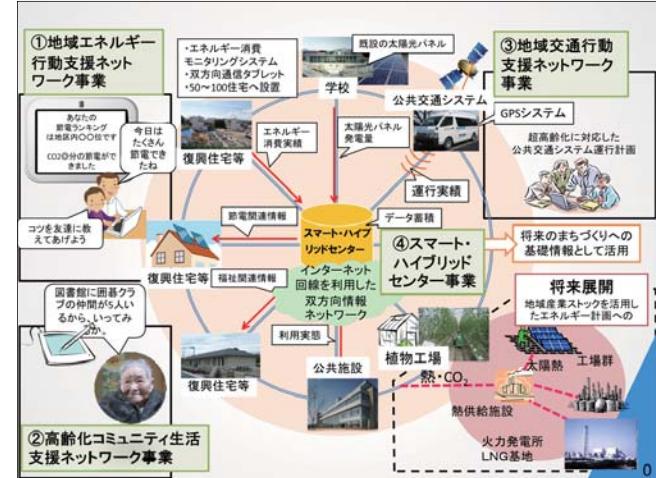
環境未来都市づくりにみる新地町の可能性

10月8日から11月12日まで全3回の「環境まちづくり町民講座」が開催されました。

この講座は、環境やエネルギーについて学び、人材の育成を図るために、復興・環境・経済が調和した持続可能な環境都市の暮らしや、新地町の可能性などについて学ぶ講座です。連携・協力に関する基本協定を結んだ「独立行政法人 国立環境研究所」の諸先生方を講師にお迎えして、開催されました。

新地町が目指すスマート・ハイブリッドタウン

新地町は、復興に向けて進行中のインフラ・住宅等の施設整備事業と協調し、環境・少子高齢化対策のため地域情報通信ネットワーク「スマート・ハイブリッド・ネットワーク」を整備し、地域コミュニティの環境と社会、経済の価値を高める復興モデルとなる社会実証事業を推進します。



第一回 環境まちづくり町民講座

環境未来都市「新地町」への期待

— 復興と未来の共生の実現に向けて —

第一回町民講座は、平成25年10月8日(火)18:00～20:00、新地町役場で開催されました。講師は、藤田 壮先生（国立環境研究所 社会環境システム研究センター センター長）です。

講座は、復興をめぐる社会と環境の状況、国内外での新しいまちづくりの試みの紹介、「新地町らしい」復興に向けて、の3つのテーマで行われました。

高齢化や温暖化といった状況の中で、エネルギーなど地域資源を有効に利用し、環境技術を組み合わせて地域を活性化することができる、そして、その国内外の事例（北九州市、北海道下川町、スウェーデン・ベクショール、デンマーク・カルンボーなど）が紹介されました。

最後に「新地町らしい」復興に向けて、エネルギーなど地域の特性を活かした産業共生型の復興計画を検討する、その短期・中長期的な検討例（短期的には省エネルギーの「見える化」など）の説明がありました。



第二回 環境まちづくり町民講座

低炭素社会の実現と新地町への期待

第二回町民講座は、平成25年10月24日（木）18:00～20:00、新地町役場で開催されました。

講師は、増井 利彦先生（国立環境研究所 社会環境システム研究センター総合評価モデリング研究室 室長）です。

講座は、震災後のエネルギー消費量の現状にはじまり、温暖化の原理、地球規模での温暖化の予測と、気候変動問題に関する国際的な動きと展望、国内での議論、新地町民の皆様ができる具体的な対策、のテーマで行われました。

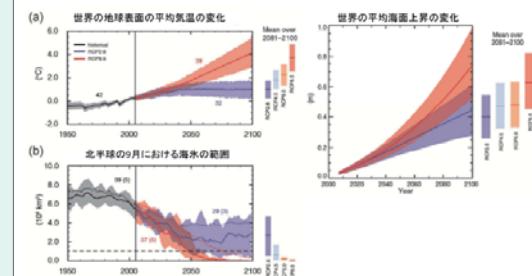
また、高齢化社会に対応した温暖化対策や、省エネによってコミュニティを活性化したり、生活の質を上げたりできることも話されました。

そして、低炭素社会の実現に向けての将来シナリオを考えるにあたって必要なこととして、まず自分の環境負荷を知ること、その上で、「長期的な目標に向けて、今何ができるのかを考える。」「短期的には無理のない、かしこく楽しい省エネを心がける。」「中期的には、省エネ機器の購入をする。」といった取り組みが紹介されました。

最後に、環境負荷を知り、その対策を検討するためにも「見える化」が重要であり、皆さんができること、長く続けられることを着実に行う必要があると締めくくられました。



IPCC第五次評価報告書(2013年)
どこまで気温は上昇するか？



今後の地球温暖化の予測の紹介

第三回 環境まちづくり町民講座

環境ボランティア社会への参加

第三回町民講座は、平成25年11月12日（火）18:00～20:00、森 保文先生（国立環境研究所 社会環境システム研究センター 森主席研究員室主席研究員）を迎えて開催されました。

講座は、ボランティア活動への参加の動機や傾向、ボランティア活動参加者の利益感、環境ボランティア活動参加の呼びかけ効果、環境ボランティア活動の事例分析、のテーマで行われました。

ボランティア活動に参加する人と参加しない人で、自由に使える時間やお金にほとんど差がなく、時間的余裕や経済的余裕はボランティア参加の条件ではないこと、参加するかしないかに利益はあまり関係しないこと、参加の促進には、好きなスポーツチームの選手の呼びかけや知り合いからの誘いが、普段あまり環境を意識して行動していない人に対して特に有効であることなどの説明がありました。

人を集めるアイディアの例として、チームでごみ拾いの成果を競う「スポーツごみ拾い大会」が挙げられ、ルールを決めたスポーツであることとチーム戦であることが、人を呼び込むことに効果を上げたことが紹介されました。



スポーツごみ拾いの大会